

佳作

夏休みの挑戦

静岡県 清水南高等学校一年 堀美月

私は、引っ込み思案な人間です。特に目立とうともせず、毎日を過ごしていました。何かみんなを引っぱったり、目立つことをしたり、そういうことが少し怖いと思っていました。

しかしある日、私は学校の教室の黒板に貼ってあった一枚のチラシに目が止まりました。それは、夏休みほぼ一カ月を使って、プロの劇団員の指導の下、子供たちだけで一つの劇をつくり上げていくというプロジェクトについてのチラシでした。私はもともと、劇を見たりするのが好きなので、いつか劇に関わることに本気で挑戦したいと思っていました。しかし私は目立つのはあまり好きじゃないので、正直とても悩みました。こんな私でもこういうものに参加していいものだろうか…と不安でした。でも、これで何か自分の中で変われるかもしれないという気持ちが生まれ、結局私は、そのプロジェクトに応募することにしました。

そして書類審査が通って、私のそのプロジェクトへの

参加が決まりました。私はその時も不安で不安で仕方ありませんでした。

そしてついにプロジェクト初日がやってきました。私はやっぱり不安な気持ちで稽古場に向かいました。このプロジェクトには合計三十八人プラス講師の方々十数名が参加していました。初日は全員の前での自己紹介から始まりました。普段引っ込み思案で目立つたことをしてこなかったのに、突然約五十人の前で自己紹介をするのはとても緊張しました。声も震え気味になってしまいました。本番ではこの人数の倍以上の人が見に来るのに、この人数で緊張してしまった私は、やっぱりここに来るべきではなかったのだろうかと完全に自信を無くしていました。

二日目から、本格的な稽古が始まりました。ウォーミングアップから、発声練習、劇で使うような特殊な歩行リズムの取り方の練習、ダンスの練習など、普段ではなかなかできないような練習を一日四時間しました。これらの練習から学べたことはとても多かったです。その点については、毎日毎日学べている実感があって、参加してよかったと思えました。しかし、私の引っ込み思案なところは、なかなか直りませんでした。やはり自分の性格を変えるのは、難しいのだなと思いました。

基礎的な稽古も終わり、いよいよ本格的に劇の中身の稽古に入っていきました。周りの人たちは演劇部などに

所属している人たちが多く、演技力がすごく高くて、私の自信はどんどん無くなっていききました。

しかしある日、私が言ったセリフを、講師の方に褒めてもらえました。私はそのとき、自分がこの場所にいる意味や、自分がここにいること自体を肯定してくれたという気持ちになりました。

そして私はこのことをきっかけに少しずつ自分に自信を持つことができるようになりました。積極的に周りの子や講師の方々に話しかけたり、自分のセリフを堂々と言えるようになりました。そのことで、友達も増え、励まし合ったり、アドバイスし合ったりすることができるようになりました。

ついに本番当日がやってきました。私はものすごく緊張していましたが、仲間や先生と支え合って、なんとか本番をのりきることができました。幕が上がった時の緊張は一生忘れません。でも私は緊張に負けず、堂々と百人以上お客さんのいる前で芝居ができたと思います。

振り返ってみると、私はこの夏でもものすごく成長できたと思います。最初は引っ込み思案で何もできなかった私は、いつの間にか大勢の人たちの前で芝居ができるようになったのです。何が私を変えたのか、考えてみたら講師の方が私に言ってくれたたった一言の褒め言葉でした。私は、たった一言だけでも、人を大いに成長させることができるということを知りました。この経験をこれ

からの人生に生かしていけたらいいなと思っています。